

マタイによる福音書 5 章 5 節についての考察

マタイによる福音書 5:5 –新約聖書の文脈

ギリシャ語テキスト（ネスレ・アランド 28）：

Μακάριοι οἱ πραεῖς, ὅτι αὐτοὶ κληρονομήσουσιν τὴν γῆν.

音訳:

Makarioi hoi praeis, hoti autoi klēronomasousin tēn gēn.

翻訳：

「柔和な者は幸いである。彼らは地を受け継ぐであろう。」

主要用語：

- Πραεῖς (praeis): ギリシャ語の「praeis」は、「柔和な」「穏やかな」「謙遜な」と訳されます。ヘブライ語聖書のギリシャ語訳である七十人訳聖書（LXX）では、「praeis」はしばしばヘブライ語の「אָנָּוִים (anawim)」を訳しており、これは謙遜な者、苦しめられた者、あるいは身分が低く神に頼る者を意味します。これは弱さを意味するのではなく、むしろ制御された強さ、謙遜、そして神の意志への服従を意味します。この用語は新約聖書の他の箇所でも使用されており、例えばマタイによる福音書 11 章 29 節では、イエスがご自身を「柔和で心のへりくだった者」(πραῦς καὶ ταπεινὸς τῆ καρδίᾳ) と表現しています。
- Κληρονομήσουσιν (klēronomēsousin): klēronomeō から派生し、「相続する」または「相続財産として受け取る」という意味です。聖書では、相続とはしばしば神の約束を指し、旧約聖書では土地、新約聖書では永遠の命と神の国などが挙げられます（マタイによる福音書 25:34、コリントの信徒への手紙一 6:9-10 参照）。
- Τὴν γῆν (tēn gēn): 文字通りには「地」または「土地」。文脈上、旧約聖書のカナンの地の約束を反映しているが、新約聖書では、終末論的な神の王国、刷新された創造を指すように霊的に解釈されている（黙示録 21:1 参照）。

マタイによる福音書における文脈：マタイによる福音書 5 章 5 節は、イエスが神の国の価値観を体現する人々に与えた祝福の連続である「真福八端」の一部です。「柔和な者」とは、傲慢で自己中心的な者とは対照的に、謙遜に神に頼り、抑圧に耐え、神の正義を信じる者のことです。彼らが「地を受け継ぐ」という約束は、神の国の将来的な成就を指し示しており、そこでは謙遜な者がキリストと共に新しい創造の中で統治することになります（テモテへの第二の手紙 2 章 12 節、ヨハネの黙示録 5 章

10 節参照)。この節は詩篇 37 篇 11 節を直接的に参照しており、イエスの教えが旧約聖書の約束の成就であることを示しています。

最良の翻訳：マタイによる福音書 5 章 5 節に関しては、英語標準訳 (ESV) と新アメリカ標準訳 (NASB) が最も正確な翻訳であり、以下のように訳されている。

- ESV 訳：「柔和な者は幸いである。彼らは地を受け継ぐであろう。」
- NASB 訳：「柔和な者は幸いである。彼らは地を受け継ぐであろう。」どちらの訳も、「prais」の文字通りの意味である「柔和な」または「謙遜な」を保持し、「地」を受け継ぐという終末論的な約束を維持している。

質問：この記述は聖書の別の箇所で見つけることができますか？

詩篇 37 篇 11 節に答えなさい。詩篇 37 篇 1～11 節を読みなさい。

## 2. 詩篇 37 篇 11 節-旧約聖書の背景

ヘブライ語テキスト (マソラ本文)：

और देखें

音訳:

Wa&#39;anawim yirshu-&#39;aretz w&#39;hith&#39;ann&#39;gu &#39;al-rov shalom.

翻訳：

「しかし、柔和な者は地を受け継ぎ、豊かな平和の中で喜びを得るであろう。」

主要用語：

- אַנְוִימַי (&#39;anawim): 「柔和な」または「謙遜な」と訳される。詩篇では、&#39;anawim は、境遇に関わらず神を信頼する義なる貧しい人々、虐げられた人々を指す (詩篇 25:9、147:6 参照)。それは、謙遜、神への依存、苦難における忍耐といった意味合いを持ち、自らの力に頼る悪人とは対照的である。
- יִרְשׁוּ (yirshu): yarash から派生し、「相続する」「所有する」「所有権を得る」という意味。旧約聖書では、イスラエルが約束の地を相続することを指すことが多い (例：申命記 4:1、ヨシュア記 1:11)。
- אֶרֶץ (&#39;aretz): 文字通り「土地」または「大地」。詩篇 37 篇では、おそらく神の契約の祝福

の象徴としてカナンの地を指しているが、より広い意味での使用（例えば詩篇 24 篇 1 節）は、普遍的で終末論的な解釈を可能にする。

- שָׁלוֹם (シャローム): 「平和」または「完全性」を意味し、単に紛争がない状態だけでなく、神の支配下での完全な幸福と繁栄を表します。

詩篇 37 篇の文脈：詩篇 37 篇は、悪人と義人の運命を対比させた知恵の詩篇です。「柔和な者」(אַנָוִים)とは、主に信頼し(3 節)、自分の道を主に委ね(5 節)、主の救いを辛抱強く待つ者(7 節)のことです。彼らが「地を受け継ぐ」という約束は何度も繰り返され(9 節、11 節、22 節、29 節、34 節)、神がご自身の民に契約の相続地を与えるという忠実さを強調する一方で、悪人は断ち切られる(9 節)ことを示しています。「地」は神の祝福と臨在を象徴し、究極的には神の王国における永遠の命を指し示しています。

最良の翻訳：ESV と NASB は今回も正確な訳を提供している。

- ESV 訳：「しかし、柔和な者は地を受け継ぎ、豊かな平和を喜びとする。」
- NASB: 「しかし、謙遜な者はその地を受け継ぎ、豊かな繁栄を喜びとするであろう。」これらの翻訳は、אַנָוִים を「柔和な」または「謙遜な」と、אֶרֶץ を「地」と捉え、契約的および終末論的な意味合いを保持しています。

### 3. 聖書の総合と意味

マタイによる福音書 5 章 5 節の「柔和な者は地を受け継ぐ」という句は、七十人訳聖書の詩篇 37 篇 11 節からの直接の引用であり、そこでは「アナウィム」は「プラエイス」と訳されている。イエスは旧約聖書の約束を新約聖書の文脈で再解釈し、「地」(アレッツ/ゲー)を物理的な約束の地から、終末論的な神の王国、すなわち刷新された地へと拡張している(イザヤ書 65 章 17 節、ヨハネの黙示録 21 章 1 節参照)。「柔和な者」とは、謙遜、神への信頼、忍耐といった資質を体現する者であり、これらの資質はイエス自身によっても示されたものである(マタイによる福音書 11 章 29 節、フィリピの信徒への手紙 2 章 5-8 節)。

聖書の主要なテーマ：

- 謙遜と神への依存：柔和な人々は自己主張や攻撃性を持たず、神の力と正義に頼ります(詩篇 37:5-6、マタイ 5:3-10)。これは、聖書全体を通して謙遜を求める教え(例：ミカ 6:8、ヤコブ 4:6)と一致します。
- 相続は神の約束である：相続の概念は、イスラエルとの神の契約(創世記 15:7、申命記 30:5 など)と結びついており、新約聖書では神の王国への参加を通して成就される(ローマ人への

手紙 8:17、ガラテヤ人への手紙 3:29)。

- 終末論的希望：詩篇 37 篇とマタイによる福音書 5 章 5 節は、神の正義が勝利し、悪人が裁かれ、義人が報いを受ける未来を指し示している（詩篇 37 篇 9-11 節、マタイによる福音書 25 章 31-34 節）。

相互参照:

- 民数記 12 章 3 節：モーセは「非常に柔和な」(&#39;anaw) と描写されており、柔和さが敬虔な特質であることを示している。
- イザヤ書 61 章 1-2 節：「アナウィムは良い知らせを受け取る」という箇所は、イエスをご自身に当てはめた箇所である（ルカによる福音書 4 章 18-21 節）。
- ゼパニヤ書 2 章 3 節：謙遜な者（アナウィム）は、主の保護を求めるように召されている。
- ペテロの手紙第一 3:4：「柔和で静かな心」は、マタイによる福音書 5:5 で重んじられている柔和さを反映している。

#### 4. 結論

マタイによる福音書 5 章 5 節と詩篇 37 篇 11 節に基づく、「柔和な者は地を受け継ぐ」とは、謙遜に神を信頼し、苦難を忍耐強く耐え忍び、神の御心に従う者は、究極の契約の祝福、すなわち、神の永遠の王国、新しくされた地への参与を受けることを意味します。ギリシャ語の *prais* とヘブライ語の &#39;anawim は、弱さではなく、謙遜と神への信頼を強調しています。旧約聖書の土地の相続に根ざしたこの約束は、新約聖書の終末論的な希望であるキリストと共に統治するという希望において成就されます。ESV と NASB は、原文の意味と意図を忠実に伝える最も正確な翻訳を提供しています。

☑ あなたの人生で、謙虚さが求められた、あるいはそうでない状況に直面した困難はどのようなものでしたか？そして、あなたは最終的にどのような教訓を身につけましたか？成功や失敗は重要ではありません。なぜなら、それは学びのためだからです。

柔和さ／温和さの例と、それらが受け継いだもの

旧約聖書における柔和さの例

- モーセ
  - 参照：民数記 12:3、出エジプト記 3-4、民数記 20
  - 柔和さ：民数記 12 章 3 節では、モーセは「地上の誰よりも謙遜な人」と記されています

(新国際版聖書)。指導者としての立場にありながらも、ミリアムとアロンからの批判に反論することなく耐え忍び(民数記 12 章 1-15 節)、自己疑念から神の召命を受け入れることを最初はためらった(出エジプト記 3 章 11 節、4 章 10-12 節)など、柔和さを示しました。

- 継承：モーセはメリバでの罪(民数記 20:10-12)のために約束の地に入ることができませんでしたが、彼の柔和な指導力によってイスラエルは約束の地を継承することができ、神から特別な関係を与えられました(出エジプト記 33:11、申命記 34:10-12)。彼の生涯は、柔和さが霊的な祝福につながるという原則を体現しています。
- マタイによる福音書 5 章 5 節との関連：モーセの謙遜さによって、神は彼を通して働き、イスラエルのために「地」(カナン)を確保し、間接的に約束を成就させた。

#### • デビッド

- 参照箇所：サムエル記上 16:1-13、24:1-15、26:1-25
- 柔和さ：若い羊飼いだっただビデは謙遜で、家族からも見過ごされていましたが、神に選ばれました(サムエル記上 16:11-13)。後にサウル王に追われた際、ダビデはサウルを殺す機会があったにもかかわらず、二度も彼の命を助けました(サムエル記上 24:4-7、26:7-12)。権力を奪うのではなく、神の時を待ったのです。
- 継承：ダビデはイスラエルの王位を継承し、永遠の王朝を約束されました(サムエル記下 7:12-16)。これは、キリストにおいて成就された永遠の王国の予兆でした。彼の柔和さは、地上と霊的な祝福をもたらしました。
- マタイによる福音書 5 章 5 節との関連：ダビデの謙遜と神への信頼は、彼が土地と王国を「相続」する結果となった。

#### • アブラハム

- 参照箇所：創世記 13 章 5-18 節、15 章 1-6 節
- 柔和さ：アブラハムは、羊飼いたちが争った際にロトに良い土地を選ばせることで柔和さを示し(創世記 13:8-11)、神の約束を信じた。また、彼は証拠を求めずに謙遜に神の契約を受け入れた(創世記 15:6)。
- 相続：神はアブラハムに、彼の子孫のためにカナンの地を約束されました(創世記 13:15、15:18-21)。そして、彼の信仰は彼を多くの国民の父とし、永遠の相続を与えました(ロ

ーマ 4:13)。

- マタイによる福音書 5 章 5 節との関連：アブラハムが神を謙遜に信頼したことが、彼の子孫が地上の土地（カナン）と霊的な土地（神の王国）の両方を受け継ぐことにつながりました。

#### 新約聖書における柔和さの例

##### • イエス・キリスト

- 参照箇所：マタイによる福音書 11:29、ヨハネによる福音書 13:1-17、フィリピの信徒への手紙 2:5-8
- 柔和さ：イエスはご自身を「柔和で心のへりくだった方」と表現されました（マタイ 11:29）。イエスは弟子たちの足を洗うこと（ヨハネ 13:3-5）、ゲツセマネで神の御心に従うこと（マタイ 26:39）、そして報復することなく十字架に耐えること（フィリピ 2:8）によって、柔和さを体現されました。
- 相続：イエスは柔和な従順さによって神の右の座に高められ、すべての被造物に対する権威を与えられました（フィリピ 2:9-11、マタイ 28:18）。イエスは王の王として地を受け継ぎ（黙示録 11:15）、イエスの弟子たちはこの相続にあずかります（ローマ 8:17）。
- マタイによる福音書 5 章 5 節との関連：柔和さの究極の模範として、イエスは約束を果たし、地を受け継ぎ、信者たちが神の王国にあずかることができるようにした。

##### • 使徒パウロ

- 参照：コリントの信徒への手紙二 10:1、コリントの信徒への手紙一 4:9-13
- 柔和さ：パウロはコリントの信徒たちに「キリストの謙遜と柔和さによって」（コリント第二 10:1）訴えかけ、迫害や中傷、苦難に耐えながらも復讐を求めなかった（コリント第一 4:11-13）。彼は自らの権威を主張するのではなく、神の力に頼ったのである。
- 相続：パウロの柔和さは霊的な実を結び、彼の宣教活動は福音を広め、神の王国を前進させる教会を設立しました（使徒 20:24）。彼は永遠の相続を期待していました（テモテ第二 4:7-8）。
- マタイによる福音書 5 章 5 節との関連：パウロの謙遜な奉仕は、教会を通して「地」（神の王国）が広がることを確実にした。

##### • 初期キリスト教徒

- 参照箇所：ペテロの手紙第一 2:18-23、3:8-9、使徒言行録 7:54-60
  - 柔和さ：ステファノのような初期のキリスト教徒は、敵を呪うことなく迫害に耐えることで柔和さを示しました。ステファノは石打ちにされながら処刑人のために祈りました（使徒行伝 7:60）。ペテロは信者たちに、悪に対して呪いではなく祝福をもって応じるよう勧めました（ペテロ第一 3:9）。
  - 相続：これらの信者たちは神の王国で永遠の相続を約束され（ペテロの手紙第一 1:3-4）、彼らの柔和な証しはキリスト教の普及を助け、教会の成長を通して地上を「相続」することになりました。
  - マタイによる福音書 5 章 5 節との関連：苦難の中での彼らの謙遜さはイエスの教えと一致しており、神の永遠の王国における彼らの地位を確固たるものにした。
- ・自己主張や自己宣伝が重視されることが多い現代社会において、クリスチャンはマタイによる福音書 5 章 5 節に記されている柔和さをどのように体現できるでしょうか？
    - イエスの模範（フィリピの信徒への手紙 2 章 5-8 節）を参照しながら、職場、人間関係、ソーシャルメディアといった現代の状況において、聖書に示された柔和さをどのように適用するかについて考察を促す。
  - ・「地を受け継ぐ」とは、その約束が未来の終末論的な現実を指し示していることを踏まえると、私たちの日常生活においてどのような意味を持つのでしょうか？
    - ローマ人への手紙 8 章 17 節やヨハネの黙示録 21 章 1 節などの聖句を引用しながら、現代社会に関わりながらも永遠の視点を持って生きることについての議論を促す。
  - ・マタイによる福音書 5 章 5 節に記されている柔和さを培う上で、あなたはどのような個人的な課題に直面していますか？また、地を受け継ぐという約束は、あなたが忍耐強く努力し続けるための励みとなりますか？
    - 弱さをさらけ出すことや実践することを促し、個人的な苦悩を神の国の希望と結びつける。
  - ・イエスが「柔和で心のへりくだった人」（マタイによる福音書 11 章 29 節）であったという模範は、人間関係やコミュニティにおいて柔和であることの意味についてのあなたの理解を、どのように刺激したり、あるいは挑戦したりするのでしょうか？
    - キリストを中心とした視点から、柔和さを人間関係や共同体における美德として捉え、深く考察することを促す。